

四旬節第3主日

2016. 2. 28

ルカ 13・1-9

クラレチアン宣教会 ジョン神父

四旬節の間、わたしたちは日頃の生活を断食や慈善的行動を通してしっかり暮らすように言われています。

今日の第一朗読はモーセの物語です。これはモーセがエジプトから逃れて砂漠で羊飼いの仕事をしているときに受けた召命についてです。モーセはエジプト人を殺した殺人者として、ファラオの王とエジプトから指名手配されていて、王たちは行方を追っていました。モーセはミディアン人の律法の中で彼の舅と一緒にいました。

その時、「モーセよ、モーセよ」という声を聞き、モーセは「はい」と答えました。神がこう言われました。

「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから」と言われモーセは履物を脱ぎ、顔をおおいました。イスラエルの人たちは直接神の顔を見ると死ぬと言い伝えられていました。神はイスラエルの民の嘆きを聞かれたので、モーセに使命を与えました。神はこう言っています。「わたしはわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの嘆きを聞き、その痛みを知った」。神はくだっていき、エジプト人から救いだし、幸せと尊厳をもった生活を送れるように導いてくれました。

モーセは神に「いったい何者か」と尋ねました。神は「わたしはある。わたしはあるというものだ」と答えました。このときからモーセの新しい旅は始まり、死ぬまで続きました。この旅は暴力と挑戦の連続で、試練と苦痛などがともなう旅でした。神は全宇宙の神です。ただ天国にとどまって苦しい人を助けもせず眺めるだけのおわっているような神ではありません。モーセは神の召し出しを全て受け入れ、イスラエルの人たちの運の悪さをかえようとしました。

人間がこの世界に存在している限り、不正と暴力はいつも人間に挑戦し続けています。しかし、神はわたしたちを助け導いてくれるように人をおつかわしになりました。わたしたちは今現在も社会にはびこる不正や権力の乱用を世界のテレビで見ることが出来ますが、難民の人たちへの不正な扱いをまのあたりにします。わたしたちの小さな家族というもののの中にさえあるのです。

第二朗読ではパウロがクリスチャンとわたしたちの現実の生活について話しています。洗礼の恵みを受け、キリストの体を頂いていて、神の声に耳を傾けているわたしたちでさえ、キリストがわたしたちに教えてきたことに従っていないときが、残念ながらあります。

モーセはイスラエルの民をエジプトから導き出したにもかかわらず、人々は神に対して不信仰をして、また神の恵みに対して裏切りをしたので、寛大に約束の地へと導いたわけでありませんでした。わたしたちも神を知りながら神の言葉に従わないとき、砂漠で死んだイスラエルの民のようになってしまいます。

イチジクの話はわたしたちに良いたとえを示してください。皆様のなかでイチジクが好きなお人はいませんか？ イチジクの実がなるまで何年待たなければいけないか知っていますか？ 答えは5年です。5年かかります。

わたしたちはイチジクの木のようなものです。神は庭の主でイエスは庭師です。毎年庭師や司祭を助けてくれる人たちが庭にあるイチジクの木に水をやり、受粉します。でも実はなりません。時がたってもイチジクに実がならない場合は水と土、受粉作業が無駄になるのでその枝を切り落として他の植物を植えたほうがいいです。

わたしたちはイチジクの木として実をつけなければいけません。神の恵みを毎日無駄にしないほうがいいです。庭師はととても優しくすぐに切り落としはせず、少しずつ先延ばしにしてくれます。

わたしたちはモーセが約束の地へと連れ出してくれたにもかかわらず、心を一切変えず神の掟に逆らい常に反抗的な態度をとっていたあのイスラエルの民のようにならないようにしましょう。また、コリント信徒への手紙にも書いてあるように、この世の人生を謳歌するだけで、助けが必要な兄弟姉妹に何もしなかった人のようにならないようにしましょう。

四旬節は祈りと回心の季節です。土を深く掘り、良い水をあげ、良い栄養を心に与え、木に良い実をならせましょう。まだ多くの実がなっていないと感じるのであれば、わたしたちは待つ、何が起こるかチェックしましょう。半分死んだ木で、水や土を与えられていなのはかわいそうなことです。回心、祈り、断食と慈善活動はわたしたちの人生を実のあるものにします。